

信仰とは神に委ねること

ある人というか、大体私達はそうなのかもしれませんが、「今までやってきたのは自分の力でやってきた」と思っている人が結構います。今まで自分の力によってやってきたというプライドを持っている人が少なくないです。しかし、少し考えてみましょう。自分の辿ってきた道を振り返って、自分はいろいろなことやいろいろな人との関わりによって支えられ守られてきたことを悟るべきです。この世の中には自分の力だけでできることは何もありません。物に対しても人に対しても「いろいろな物やいろいろな人達に恵まれてきた」ことを感謝しなければなりません。そして、もっと深く考えてみるとその真ん中に、中心に神様がいらっしゃいます。

皆さんはどのようなタイプですか？ 不平、不満、文句が多い方ですか？ 自分は客観的にみると否定的だと思いますか？ または、何かあっても肯定的に考えるタイプですか？ いつも不平、不満に囲まれている人にとって何より大きな損になるのは感謝することができないということです。もし感謝することができなかつたら自分の生き方が楽しくない、喜びがありません。人間に与えられる一番大きい喜びというものは結局感謝の心から生じます。私達はどれ位感謝しながらこの人生を生きているでしょうか？ よく振り返ってみて下さい。よく考えてみて下さい。そしたら感謝することばかりです。「この世の中のすべてのことを感謝しなければいけない」という気持ちになります。

ひとつの作り話をします。オリーブの木と杉の木がいました。オリーブの木は適な場所に植えられていました。「私は成長したら、たくさんの実をつけて人々に褒められたい」という希望を持って子供のときからそういう心を育てました。又、杉の木は「私は立派に空までそびえて、みんなに格好いいと言われたい。逞しく大きくなりたい」という夢を育てました。しかし、オリーブの木は成長しましたが実がみのらなかったのです。その木の持ち主は残念に思いましたが、他の木の邪魔になるのでしかたなく切りました。杉は植えられている所に新しい道路ができたので、空に聳える前に切られました。結局、きれいな夢を持っていたこの二つの木は夢を失ってしまったのです。切られたオリーブの木と杉の木は丸太にされてほかの場所に移されました。オリーブは「私は実をみのらせられなかったが、職人の手できっと何か良い役立つ物になるかもしれない」と思っていました。しかし、完成された自分の姿を見ると、牛や馬がエサを食べる飼料おけでした。「私は希望を持って今までやってきたのに、なぜこんなになってしまったのか」と思い、オリーブの木は泣きました。「自分がやりたかったことは全部できなかった。自分のせいではなく何かの力によってこんなになってしまった」。そして自分は呪われていると思い「私には神様を愛する理由はない」と神様も呪いました。そして毎日、毎日辛い気持ちで飼料おけの役割をしていました。杉の木も丸太になってどこかに運ばれて行き、何になるのかと思っていました。完成された自分の姿を見たら、それは犯罪者と言われる者たちが処刑される十字架でした。「私は皆に褒められたかったのに、この姿を見たら人々は私を呪うのではないか。なぜこんなに自分の生き方はメチャクチャになったのか」杉の木も自分は呪われていると思い、神様のことも呪いました。

皆様もう予想がつくと思いますが、ある日その飼料おけには救い主である赤ちゃんのイエス様が寝床として横たわりました。又、杉の木の十字架は人類の救いのために必ず必要だった十字架の道の主人公の役割をした十字架になりました。

何か感じられるでしょうか？ 私達にはわかりません。神様が御旨によって私達にどのようなことをご計画されているのかわかりません。よく考えて下さい。一年前、私はこの太田教会に来ました。それまで皆様に会うとは全然思っていなかったです。想像さえしませんでした。しかし今皆様とわたし

の絆ができています。皆様は私を信頼してくれています。私も皆さまを信頼しています。予想できなかったことです。

信仰というものはこのような目で見なければならぬのです。たぶん、いろいろなことでがっかりしていらっしゃる方が結構いると思います。それも罪です。がっかりするのも罪です。私達にはがっかりする資格がありません。権利がありません。なぜなら信仰というものは委ねることだからです。イエス様は私達に何かご計画があるのかどうか。その計画は何か。良く祈りながらそれを図ろうとする心が私達には必要です。

イエス様がつけられた十字架になった杉の木は幾つかの木片になって、2000年たった今でも世界のあちこちの有名な聖堂に保管されています。そしてそこには信徒たちが訪れ、接吻し祈りを捧げています。今度30名の方が韓国に巡礼に行かれますが、韓国の教会にもその十字架の木片があります。それはパパ様が認められたもので韓国では宝の木、宝木と言います。そこを訪れた時この話を思い出して下さい。

オリーブの木の目的は何でしょうか？ 実をみのらせることですよね。それが許されなかった。どれほど辛かったでしょう。しかし、イエスさま、神様のご計画は違うところにあったと後で悟るのです。

皆様お願いします。いろいろむずかしいことや問題があると思いますが、何より神様に委ねることです。「神様、あなたが良くして下さいを信じます。私はあなたのみ言葉に従うことだけをします」と言えば、全部神様が責任をとって下さる。これが私達に何より必要な信仰の姿だと思います。

今日の福音はエマオに行く二人の弟子の話でした。道でイエス様に出会って、イエス様がパンをさいた途端にイエス様だとわかったという復活の体験が語られています。この二人はどのように言いましたか？「道で話しておられたとき、又聖書を説明して下さいったとき、私達の心は燃えていたではないか」

皆様、み言葉を聞いて祈るとき心が燃えた経験があるでしょうか？ 熱く燃えたり、これが真の人生だと悟った記憶があるでしょうか？ 復活の体験とはこんなに熱いのです。自分が今まで科学的に考えられなかった体験がの中で生じるのです。私達は頭と胸と共に生きています。頭で論理的に考えます。しかし、感じるのは胸です。胸で感じられなければ絶対熱くなりません。人間を幸せにさせるのはこの胸です。胸で信仰の道を歩もうとする努力が何より必要ではないでしょうか。

ありがとうございました。